



しんぶん

# 心不全

ニュースレター 第9号 2024年2月  
発行:まつまえ循環器内科クリニック

## 心不全パンデミックに備える

新型コロナウイルスによる医療崩壊という言葉は、たびたびテレビ等で取り上げられていました。未知のウイルスであったことや、医療従事者にも感染が広がってしまったことなど、予測できていなかったことが重なってしまったことも要因として挙げられます。

一方で、私が専門とする循環器領域では、予測されているパンデミックがあります。それが、「心不全パンデミック」です。あらゆる心臓病、あらゆる生活習慣病の行き着く先に心不全という状態があります。心不全パンデミック状態になると、入院治療が必要な心不全患者さんであふれ、病院が患者さんを受け止めきれなくなる事態が想定されます。

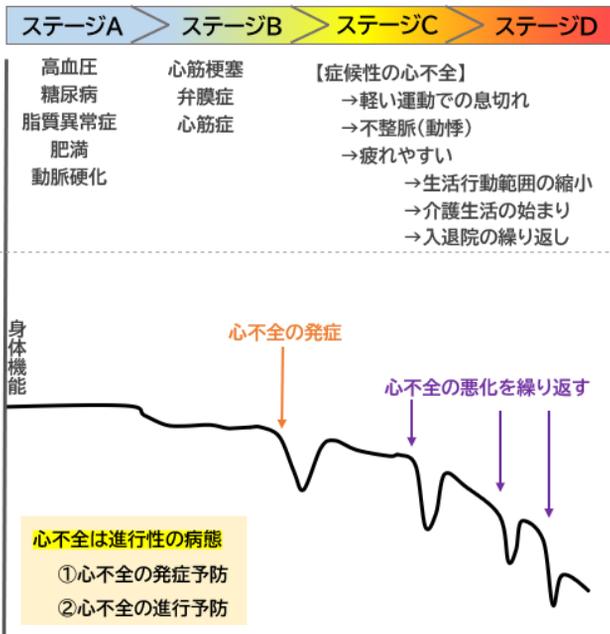
心不全パンデミックは予測できる状況ですので医療体制を整えることも必要です。ですがそれだけでは繰り返す心不全を止めることは難しく、心不全の発症を予防し、再入院させない取り組みを広げることが重要だと考えています。

「悪くなってから治療」という従来型の医療との向き合い方ではなく、良い状態を維持することが大切であり、通常診療だけではまかないきれない部分をカバーする心臓リハビリテーションの普及に努めて参ります。



院長 松前宏信

## 心不全ステージ



心不全の厄介なところは、心不全の増悪を繰り返して徐々に生活の自由を失っていくこと、また入退院の繰り返しや介護など、本人だけではなくご家族など周囲の方への影響も決して少ない点です。

心不全の発症を予防するには、高血圧や糖尿病といった心不全ステージAの治療をしっかりと行う事が大切です。そして万一心不全の状態になってしまったら、専門的な治療を受けて心不全ステージの進行を緩やかにする取り組みが重要となります。

# 心不全の早期治療に繋げるために

## イエローカード

- ・体重増加(1週間で1.5kg以上)
- ・動くと息切れが起きる
- ・足のむくみがひどくなった
- ・食欲がわからない、疲れる

早めに受診!



## レッドカード

- ・とにかく息苦しい  
(横になれない、座っている方が楽)
- ・冷や汗が出る
- ・咳が出て眠れない

今すぐ受診!



上記のような症状を自覚したら、それは「心不全」かもしれません。一見して心臓の病気と結びつかない症状であること、また我慢強い方が多いのか、レッドカードになって救急車で運ばれてくる患者さんも少なくありません。

**心不全は重症になる程に治療が難しくなっていきます。**

心臓の治療を受けられている方もそうでない方も、イエローカードの時点で早めに当院にご相談下さい。

早めが  
おススメ

## 花粉症対策

薬物療法

舌下免疫療法



日本気象協会の花粉飛散予測によると、関西地方でのスギ花粉の飛散は、ほぼ平年並みの2月中旬からスタートする見込みで、ピークは3月上旬から下旬と予想されています。花粉症の治療は、「症状が出る前～出始め」と出来るだけ早めの対応がポイントです。



花粉が飛び始める前から開始することが効果的といわれているため、花粉症でお悩みの方はなるべく早めにご相談下さい。

当院ではアレルギー反応であるくしゃみ、鼻水、鼻づまりなどの症状を薬でおさえる**薬物療法(対処療法)**と、体をアレルギーに慣らしていく**アレルギー免疫療法(舌下免疫療法)**を取り扱っております。